

支援部の実践

実践の取組内容 ～教育相談～

①巡回相談

ある程度の情報をいただき、校内の教員のコーディネーターで手立て等の見立てをしてから相談へ行くようにしている。

アセスメントシート
①SENSのアセスメントシート
②学校独自のアセスメントシート
《学習面生活面で気になるとういことへの支援》

※細かい情報が必要な場合は①を使用し、ある程度情報がある場合は②を使用している。

②ポケット教室

○継続的教育相談。
○年間10回。来校してもらう。
○児童生徒1人に2人の担当教員がつき、課題に取り組んだり、保護者の話を聞いたりする。
(内容によっては学校につなげる)

巡回相談 ～児童A～

○5年生（3年生からポケット利用）
○相談内容：自然学校の参加の仕方

活動全体について

- ①事前に保護者の希望や送迎等について情報を聞く。
- ②担任の先生が考える参加できると思う活動を聞く。
- ③①と②を合わせて参加方法を考える。
- ④休憩時間の過ごし方、集団の活動が難しくなった時の過ごし方を考える。
- ⑤必要なツールを考える。
- ⑥全体の活動のしおりとは別にA用のしおりの作成。
- ⑦全体の事前学習とは別に個別の事前学習。

実践の成果と課題

成果

- ・Aは安心して自然学校に参加することができた。
- ・担任の先生とコーディネーターの意見をそれぞれ合わせることができた。
- ・支援学校で使っているスケジュールの視覚化等の紹介と、小学校のツールで使っているものとでAに合った校外での活動のツールにつなげることができた。
- ・学校→本人（保護者）→ポケット教室の連携がとれた。
- ・自然学校終了後、保護者、学校、ポケット教室とそれぞれ本人とうれしい会話ができた。

課題

- ・他の行事への参加状況がどうなのか分からない。
- ・在籍学校とポケット教室では、ねらいに違いがあるので、担任の先生との連絡を取り合った方がよいと思う。
- ・学校の活動は「集団の場」、ポケットは「個の場」という違いがあるので、それぞれの「場」での違いを共有できた方がよいと思う。

実践からの学び

- 1人で抱え込まず、いろんな人と相談することで、支援方法のアイデアが考えられる。
- 自分たちが学校生活で工夫しながら取り組んでいる個に合わせた支援の方法も相談先の学校での1つの視点になること。
- 継続の相談は、連携が取れるのでとても大切であること。
- 巡回相談でも、見たことを伝えるだけでなく、相手校の先生と一緒に考えて相談をしていくことが大切なこと。
- 相談に行く際に、事前情報で、ある程度の見立てをして自分の考えを持っていくことが必要なこと。

今後に向けて

ビジョン

- 本校では夏季休業中に公開講座を行っている。
地域の小中学校の先生方も来られるので、講演を聞くだけでなく、一緒に話し合ってアイデアを共有する場を持ってみたい。
また、ここからつながりを大切にして、話し合える教育相談につなげていきたい。
- 1人の子について話す場を重ね、他の視点や意見を考えながら、実践に活かし、それを地域の先生方との相談にもつながるようにしていきたい。

地域支援づくりへの提案

コーディネーターとして

- 特別支援教育の専門性として、校内での支援方法や支援ツールの共有を行っていく中で、より多くの手立てを自分の中に持っておくことが大切。

エリアコーディネーターとの協働について

- ◎現状では、エリアコーディネーターとのつながりはない。
- 地域と連携していく中で、今まで築いてきたつながりも大切にしながら、新しい体制としてのエリアコーディネーターとも連携していく仕組みを作っていくことが必要。

反省・改善しながら、地域に合った支援体制を作っていく → 地域支援づくり